

コラム

《腰折れ文》 十五、

渡邊澄子（会員）

私って世事に疎いのだろう。アムロナミエっていう歌手の顔も歌も知らなかったが、国民的スターとして引退が社会的現象になるほどの人だったとは！ 時はまさに翁長知事継承の辺野古反対候補と、一強の権力と豊富な金力で基地強行候補の一騎打ち知事選の真っ最中なのに、沖縄は安室で沸き立ち、ライブの後では一万二千発の花火（どこがいくらかけたのだろうか）があげられたが、引退後も、全面ハベージもの特集がされたばかりか、全国紙（朝日では五面にわたる全面広告）もテレビも大きく採りあげていて、沖縄だけでなく日本にとっても岐路的状况なのに、彼女の引退が日本の天下国家に重大な問題であるかのようなのは、安倍政権支持者四割！、とともに私には奇々怪々な現象に思われるのだ。

もった大事な問題が沢山あるのに。例えば、八月に開かれた国連人権差別撤廃委員会の対日審査でヘイトスピーチ、旧日本軍の慰安婦問題、沖縄、アイヌ、被差別部落、アジアからの技能実習生の待遇などへの政府の対応への厳しい批判があり、喫緊の課題の辺野古問題について、世界的著名文化人一三三名による県の承認撤回支持、基地建设即時中止、沖縄の非軍事化を求めた声明（九・七、長文の声明全文が『琉球新報』九・八に掲載）と、国内有識者による四度目の辺野古基地建设撤回声明に政府は「われ聞せず」の態度なのだ。医大入試の女子受験生への差別は、それが教育の場であることで怒りは倍加。一九年度予算総額は一〇二兆円台後半の過去最大で、それは医療などの社会保障もあるが防衛費の最高額と借金返済の国債費によるといふ。防衛費最高額は危険信号だ。一方未来志向を口にしながらか未来を担う世代への教育的支出は経済協力開発機構（OECD）加盟国中最低で、家庭負担依存の現状を浮上させた。アベノミクスが格差を助長している中で低所得家庭の子は大学進学を阻まれ、奨学金とバイトで進学しても奨学金負債額は加盟国中最高という。

これらは人権差別になり憲法違反につながるだろう。この差別は、関東大震災での朝鮮人虐殺への慰霊式典に都知事は出席せず、代読された追悼文には全く触れていなかったこと、もっと驚いたことに、日本軍の残虐な行為による凄絶な沖縄戦の民間被害者が、軍人・軍属には戦後補償されているのに絶無の違法性を訴えた訴訟に対して、最高裁が審理入りせずに「受忍論」や国家賠償規定のない旧憲法によって上告棄却した『琉球新報』9・14）とは。沖縄戦の惨状を知れば知るほど国の責任追及の声を挙げたくなるのに。国って何だろうか。人間を悪魔に変える戦争のできる国に向かってひた走る安倍総理は国の支配者なのだ。政権の施策への恐怖から、「負」の歴史を今更だが調べている。本協会企画のツアーに参加して七三一部隊の本拠を見たが、「罪証 陳列館」は新装改装中で入館できなかったの完成後、一人で行ったが、このたび、専門家の説明が聞けるABC企画委員会による八日間の「731部隊と〈要塞〉遺跡を訪ねる―ハル濱・東寧・綏芬河・牡丹江・林口」のツアーに参加した。七三一部隊は平房が本拠だが、至る所に支部があったのだ。破壊されたところが多かったが跡に身体が震えた。東寧で

は多くは出入り口の痕跡だけだったが、一つ、現状維持されていた要塞があった。外からは草ぼうぼうの小山だが、道のない一歩も伸びた草をかき分けて、はまった靴を抜くのに大変なぬかるみを登る二キロ以上息ハアハアで辿り着いた中は、司令官官舎始め数えきれぬ部屋、弾薬庫その他、出入り口は迷わないかと思われるほど縦横な網の目で、草に隠された銃口がほんのすぐその現ロシアのソ連に向いていた。毒ガス被害者の無残な写真には侵略の実態を感ぜられた。謝罪や補償はしたのだろうか。林口では私設博物館と称する粗末な建物に、逃走後の日本軍の遺留品が並べられていたが兵士の手紙には衝撃を受けた。返還不能ならせめて「コピー」をお願いしたが……。七三一部隊に生きた証人は一人もいないのに私の購入したものだけでも二〇冊を超える。本当の責任者は免責されて悠々の戦後をおくっているのだ。許せない。戦争は人間を悪魔に変える真実をまざまざと突きつけられた旅だった。その戦争への道を選ぶとする安倍氏が自民党一党の八一〇名による投票で勝ち、日本の支配者になるこの制度、おかしくないだろうか。完勝でなくても勝ちちは勝ち。続くのかと思つと恐怖が募る。